



ちょっとそこまで～お散歩日和(植物編)～



タチアオイ



梅雨入りの頃になると、一気に周囲を明るく照らす役割を果たすのがタチアオイです。まさに夏の到来を告げる花です。団地内では、5号棟と8号棟の前に植栽されています。濃淡の差はありますが、いずれもピンクの色合いがとても美しく、10cmを優に超えるほどの大輪を穂状に咲かせる姿は、圧倒的な存在感を放っています。8号棟の花は、花弁がはっきり5枚見える一重咲きですが、5号棟の方は二重咲きになっていて、同時期に咲くシャクヤクにも似ています。



5号棟



8号棟

この花はとても不思議なことに、ちょうど梅雨入りの頃に計ったように咲き始め、梅雨明けと共に花期が終わります。そのことから「ツユアオイ(梅雨葵)」という別名も冠されています。逆に言えば、てっぺんの花が咲くと梅雨明け間近という目安にすることもできそうです。

俳句の季語にもなっている「葵」とは、一般的にアオイ科の植物を指し、タチアオイ・ゼニアオイ・モミジアオイなどの総称です。しかし、その直立した姿の凛々しきや花の気品から、今では「葵」と言えば、このタチアオイのことだと聞いたことがあります。

「アオイ」の名前は、葉がどんどん太陽の方に向かう様から「あふひ」(仰日・日向)に始まるようです。しかし、植物は概ねそういう性質を持っているから、取り立ててこの植物だけをという気がしなくもありません。ただ、その語感と陽性の意味合いから、「葵」さんと名付けられた子が増えている印象があります。

しかし、一昔前までは、「葵」と聞けば、誰でも徳川家の家紋を思い出しました。ところが、タチアオイの葉は整ったハート形をしていません。これは、フタバアオイという山野草がモデルになっています。徳川家の家紋の原型を辿ると、「葵祭」で有名な、京都賀茂神社の神紋に行き着きます。家康の先祖と賀茂神社との縁に始まるのだそうですが、どうして「三葉葵」へと変化したのかは不明です。恐らく近江商人の「三方良し」に代表されるように、双葉の対立構造よりも三葉の方が安定感もあり縁起も良いとの判断なのでしょう。



それにしても不思議なのは、どうしてこんな地味な野草を大事な家紋に選んだのかということです。例えば、ルイ王家はユリであり、イギリス王家はバラであるように、誰でも高貴で華麗な植物をモチーフにするものです。ところが、戦国武将はカタバミとオモダカが人気でした。カタバミは今では郵便局のマークにもなっているのでともかく、オモダカとは田んぼに茂る雑草です。確かに葉の形は矢じりに似ていて戦いの象徴と言えなくもありませんが、敬慕・尊崇とは対極です。(終)